

# 成長・貢献・感謝

# 地区中総体を振り返る

羽地中学校  
学校だより 39 号  
R1. 6. 5



大宮中戦でドリブルインを狙うS選手

羽地中女子バスケット部は初戦、大宮中との対戦。会場の今帰仁村民体育館は双方の応援団で混雑していた。ゲームは第2クォーターまで得点の取り合いで、羽地得意の速攻やカットインが少なかつたように思う。それでも第3クォーターからは、徐々に点差を離し、かろうじて逃げ勝った。

二回戦は今帰仁中戦。前回、4月の春季大会では39-42で負けている相手だ。粘りのデフェンスからOさん

の3ポイントや速攻からのドリブルインが決められ、得点を重ねていった。しかし、相手デフェンスもハードになり、外から打たれるシュートやリバウンドでも取れず、苦戦を喫い47-48の半ゴール差でまたも勝利に届かなかつた。選手達の怪我也あり、万全の体制ではなかつたが、普段の走りがいかに勝敗を決するか振り返りたい。そして、怪我を予防する練習が望まれる。次も期待したい。



粘りのデフェンスからインターセプトやスチールを狙う



ドリブルで振り切るK選手



速攻からのランニングシュート



滑りやすいコートで踏ん張る



フリースローは必ず決める

(昭和53年)に再度、優勝した。当時の監督は、山川宗助先生、バスケットに指導力のある先生でした。平成に入り、女子が優勝したのは平成19年(2007年)が記録に残っています。最近では、平成27年の地区大会男女優勝、28年に女子は2連覇、平成30年にも優勝しています。監督はT・S先生(大宮中)、副監督・K・M先生、コーチはY・Sさんでした。今年度6月の高校総体で女子バスケットボールで優勝した西原高校には、羽地出身のN・Rさん、準優勝した糸満高校のキャプテンY・Rさん達が頑張っています。

羽地中女子バスケット部の歴史をひもとくと、1974年(昭和49年)の第1回地区中体連で3位に入賞。続く1975年(昭和50年)に県中体連バスケット大会で優勝、7月に九州大会に派遣され、九州3位の成績を残した。以来、同年の地区新人大会で優勝、翌年の1976年(昭和51年)の地区中体連で優勝、県大会での成績は不明だが、九州大会で2位の成績、全国大会で3位の輝かしい実績を残した。続く同年の地区新人大会で優勝を重ね、77年は優勝できなかったが、翌年1978年